



## 「地域の特性」と「食のまちづくり」を支えるために 人と地場産業を育てる新規就農・産業支援を

鈴木 ひとみ / 文教民生委員会委員・都市計画審議会委員・子ども子育て会議委員 他

食のまちづくりの拠点を整備する方針が公表され、補正予算案の中に債務負担行為として盛り込まれました。「食のまち」としてのブランド力を強め、地産地消を進めるために整備したいと考えています。食のまち、地産地消には豊かな農水産物の提供が必須ですが、農漁業の担い手の高齢化、後継者不足は深刻です。2020年の農林業センサスによると、館山市の農家の平均年齢は68.8歳、65歳以上が73.9%です。農漁業を守り、育てていくための対策を急がなくてはなりません。農家の高齢化、耕作放棄地の増加の問題はこれまで幾度となく議論されてきましたが、中々解決を見ません。どうすれば規模を拡大し、収入を安定させられるか、市が農家と一緒に取り組むことが必要です。新規就農者を増やすために、資金面、技術面での

ハードルを下げるのが大切です。また、一次産業は気候変動に大きな影響を受けます。

台風による被害だけでなく、気温や海水温の上昇により、適正作物や、水揚げされる海産物の量や種類も変化しています。地球温暖化を防がなくてはなりません。食のまちづくり拠点は、2023年度開業で20年契約の予定です。2043年の館山市で豊かな食材を提供するには、今何をすべきか一緒に考えましょう。



## 地域の活動を 写真で報告 Photo Report



地域の活動や課題を掘り下げ、写真でご紹介します。

地域の活動や課題をカメラ片手に取材する「フォト・レポート」。今回は、有害鳥獣対策の現場を「猪年」の鈴木ひとみ議員が報告します。

11月19日の朝、「デッパツなイノシシが捕まった。」と電話をもらって行ってみると軽トラの上に大きなイノシシ。竜岡で箱罾にかかった140.5キロの雄でした。各地でイノシシの被害が多発し、最近では住宅地や学校の近辺でも目撃されて、罾を仕掛ける、防護柵を設置するなど取り組みが進んでいます。令和2年は2月までに約2,200頭が捕獲されました。捕獲数の増加に



より、各地区では処分に困っています。今年度、市議会への要望に、処理場を作って欲しいという声がたくさんありました。市では出野尾に有害鳥獣の処理施設とジビエ加工施設を整備する予定です。

# 一期一会

## 人との出会いと対話を大切に 新政クラブ会派報告

議員活動をコンパクトにお届けします。

令和3年3月号

館山市議会会派「新政クラブ」は、互いに切磋琢磨し、理念や政策などを共に活動する議員の集まりです。

皆さんとの出会いと対話を大切にしながら、地域の課題を丁寧に見聞きし、市政に反映させる政策を提言しています。各会派議員の活動をご報告します。

### CONTENS

#### 【会派・議会報告】

- P1 鈴木 正一  
石井 信重
- P2 望月 昇  
倉田 孝浩
- P3 鈴木 ひとみ

#### 【フォト・レポート】